

聖霊降臨後第 17 主日特祷（特定 22）

永遠にいます全能の神よ、信仰の賜物を私たちのうちに増し加えてください。私たちが後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けてあなたの教えの道を走り、尽きることのない喜びの栄冠を授かることができますように。父と聖霊とともに一体の神であって、世々に生きすべてを治めておられる私たちの主、イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

旧約聖書 ハバクク書 1章1－4、2章1－4節

1:1 預言者ハバククが見た託宣。

2 主よ、いつまで助けを求めて叫べばよいのですか。あなたは耳を傾けてくださらない。「暴虐だ」とあなたに叫んでいるのに、あなたは救ってくださらない。3 なぜ、あなたは災いを私に見せ、労苦を眺めたままなのですか。私の前には破壊と暴虐があり、争いといさかいが起こっています。4 こうして、律法は力を失い、正しい裁きがいつまでも下されません。悪しき者が正しき者を取り囲み、そのため、裁きが曲げられています。

2:1 私は見張り場につき、砦の上に立って見張りをしよう。主が私に何を語り、私の訴えに何と答えられるかを見よう。2 主は私に答えられた。「この幻を書き記せ。一目で分かるように板の上にはっきりと記せ。3 この幻は、なお、定めのため、終わりの時について告げるもので、人を欺くことはない。たとえ、遅くなっても待ち望め。それは必ず来る。遅れることはない。4 見よ、高慢な者を。その心は正しくない。しかし、正しき人はその信仰によって生きる。」

詩 編 第37編 1－9節

- 1 悪をなす者に怒りを燃やすな || 不正を働く者を妬むな
- 2 彼らは草のように瞬く間に枯れ || 緑の若草のようにしおれる
- 3 主に信頼し、善を行え || 地に住み、真実を育め
- 4 主を喜びとせよ || 主はあなたの心の願いをかなえてくださる
- 5 あなたの道を主に任せよ || 主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる
- 6 主はあなたの正義を光のように || あなたの公正を、真昼のように輝かす
- 7 主の前に沈黙し、主を待ち望め || 成功の道を行く者、謀を遂げる者に怒りを燃やすな
- 8 怒りを解き、憤りを捨てよ || 怒りを燃やすな。それはただ悪を行うに至る
- 9 悪をなす者は絶たれ || 主に望みを置く人こそが地を受け継ぐ

使徒書 テモテへの手紙二 1章1－14節

1:1 キリスト・イエスにある命の約束に従って、神の御心により、キリスト・イエスの使徒とされたパウロから、2 愛する子テモテへ。父なる神と私たちの主キリスト・イエスから、恵みと憐れみと平和がありますように。

3 私は、夜も昼も祈りの中で絶えずあなたのことを思い起こし、清い良心をもって先祖以来仕えている神に感謝しています。4 私は、あなたの涙が忘れられず、あなたに会って、喜びに満たされたいと願っています。5 また、あなたが抱いている偽りのない信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、私は確信しています。6 こういうわけで、私はあなたに注意したいのです。私が手を置いたことによってあなたに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせなさい。7 神が私たちに与えてくださったのは、臆病の霊ではなく、力と愛と思慮の霊だからです。8 ですから、私たちの主を証しすることや、私が主の囚人であることを恥じてはなりません。むしろ、神の力に支えられて、福音のために、苦しみを共にしてください。9 神が私たちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、私たちの行いによるのではなく、ご自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにあって私たちに与えられ、10 今や、私たちの救い主キリスト・イエスが現れたことで明らかにされたものです。キリストは死を無力にし、福音によって命と不死とを明らかに示してくださいました。11 この福音のために、私は宣教者、使徒、教師に任命されました。12 そのために、私はこのような苦しみを受けているのですが、それを恥じてはいません。私は自分が信じてきた方を知っており、私に委ねられたものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです。13 キリスト・イエスにある信仰と愛をもって、私から聞いた健全な言葉を手本としなさい。14 あなたに委ねられた良いものを、私たちの内に宿っている聖霊によって守りなさい。

福音書 ルカによる福音書 17章5－10節

17:5 さて、使徒たちが、「私どもの信仰を増してください」と言ったとき、6 主は言われた。「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この桑の木に、『根を抜き、海に植われ』と言えば、言うことを聞くであろう。7 あなたがたの誰かに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。8 かえって、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、私が食べ飲みする間、給仕してくれ。その後で、食べ飲みするがよい』と言うのではなかろうか。9 命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。10 あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『私どもは役に立たない僕です。すべきことをしたにすぎません』と言いなさい。」